

2024年6月30日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

歴代誌下 36 : 15~16

マタイによる福音書 5 : 10~12

「大いに喜びなさい」

【招詞】詩編 51 : 12~14

【讚美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】詩編 130 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 16 「われらの主こそは」

【祈祷】

【聖書】歴代誌下 36 : 15~16

マタイによる福音書 5 : 10~12

【説教】「大いに喜びなさい」

<迫害される幸い>

これまで、イエスさまの「山上の説教」の冒頭にある、八つの幸いの御言葉を、一節ずつ聞いてきました。これは、イエスさまが、来てくださり、招いてくださり、それに応えて従ってきた弟子たちや群衆に、語りかけてくださった御言葉です。

イエスさまは、これから十字架と復活への道を歩んでいかれます。彼らの罪を背負い、弱さを背負い、涙を背負い、死を背負い、彼らを父なる神さまの御許へと導かれます。

そうしてイエスさまが、一人一人が負っている重荷を、担ってくださるから。イエスさまが、罪の悲惨さの中から、救い出してくださるから。今、この方の御前に立たされ、招かれ、語りかけられている人々は、わたしたちは、幸いなのです。

さて、八つの幸いの一つ目は、5 : 3 「心の貧しい人々は、幸いである、／天の国はその人たちのものである」との御言葉でした。

そして今日は八つ目、その最後の所です。10 節「義のために迫害される人々は、幸いである、／天の国はその人たちのものである」。

さらに、その後に 11~12 節が続いていて、こうあります。「わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである」。

これは、10 節をより詳しく述べたものだと考えられています。

「義のために迫害される人々は、幸いである」。

このことを詳しく言い換えて、「わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである」と語られているのです。

イエスさまのために、わたしたちが、ののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられる。そのとき、わたしたちは、幸いだ、というのです。

…どうでしょうか。わたしたちは、そのように迫害されることを、本当に「幸いだ」と思うことが出来るでしょうか。

わたしたちが、「迫害」と聞いて一番に思い起こすのは、「殉教者」たちのことかも知れません。

教会の歴史の中では、イエスさまの十字架と復活を信じたゆえに、また、イエスさまの福音を宣べ伝えたゆえに、追放され、捕らえられ、拷問され、壮絶な死を遂げていった、そんな信仰の先達が、数多くいます。

まず、イエスさまの十二使徒の多くは、拷問や処刑で亡くなっています。使徒たちのシンボルの多くは、殉教したときに使われた処刑の道具などです。

また、ローマ・カトリック教会で、聖人と呼ばれている人々のほとんどが、信仰のゆえに厳しい死を遂げています。宗教改革者もまた、命をかけて戦った人々です。そして、わたしたちの日本でも、キリシタン禁制などで、激しい弾圧や残酷な処刑がありましたし、戦時下には国の監視の下に置かれ、投獄されることもありました。

また、近年でも、キリスト者を迫害している国家は、まだまだあるのです。

このように、イエスさまを信じる信仰のゆえに。イエスさまの救いを、一人でも多くの人々に宣べ伝えようとするゆえに。多くの人々が、ののしられ、迫害され、悪口を浴びせられ、殺されてきたのです。

…このことを思うと、わたしたちは、たじろいでしまうのではないのでしょうか。

果たして、自分は迫害されたら、それに耐えられるのだろうか。自分だったら、すぐ逃げてしまうかも知れない。怖くなって、もしかしたら信仰を捨ててしまうかも知れない。あんなに忍耐強く、立派に戦うことなんて出来ないに決まっている。

…わたし自身は、牧師になるための神学校へ行ったときに、よくこのことを考えていました。もし、急に日本がおかしくなって行って、キリスト教への迫害が起こったら、わたしは信仰を守れるだろうか。すぐダメになってしまうんじゃないだろうか。こんな弱い心持ちで、献身なんて出来るんだろうか…。

迫害される人々は、幸いである。それは、どういうことなのでしょう。

<心の貧しいわたしたち>

でも、ここでイエスさまが仰っているのは、わたしたちが、自分の力で、迫害に耐えられるか、耐えられないか、という話ではありません。

ここでは、何があっても、迫害に耐え抜きなさいとか。覚悟をもって死ぬまで戦いなさいとか。そんなことは言われていないのです。

ここで語られていることは、イエスさまに従う者は、迫害されることになるよ、という現実のことなのです。

イエスさまの救いに与ったら、争いのない、穏やかな、みんな仲良しの生活が待っている、という訳ではありません。

むしろ、イエスさまを信じているからこそ、わたしが攻撃されることがある。ののしられたり、身に覚えのない悪口を浴びせられることがある。迫害は、イエスさまを信じた結果として、あることですよ、と語られているのです。

そして、わたしたちは、自分の力で、覚悟と根性を決めて、迫害に耐え抜くことを期待されているわけではありません。

それは、今日の御言葉を見ると分かります。10節にはこうありました。

「義のために迫害される人々は、幸いである、／天の国はその人たちのものである」。

この、「天の国はその人たちのものである」というところは、一番目の幸いである、3節の繰り返しです。3節にはこうありました。

「心の貧しい人々は、幸いである、／天の国はその人たちのものである」。

つまり、義のために迫害される人々、イエスさまのために迫害される人々とは、心の貧しい人々のことなのです。

心の貧しい人々とは、自分の中に、より頼むものも、力も、救いも、何もない人々のことでした。だからこそ、神さまに依り頼むしかない人々。神さまの助けなしには歩めない人々。神さまに、何もかもを乞い求めなければ、生きられない人々のことでした。

ですから、父なる神さまは、御子イエスさまを、お遣わしくくださったのです。

そして、この方が、心の貧しい人々のところに。罪の中で何もできず、苦しみ、喘いでいる人々のところに、来てくださり。罪の赦しを与え、命を与え、力を与え、すべてを満たしてくださる。神さまの、愛と、憐れみと、命のご支配を。つまり、天の国を、与えてくださる。十字架と復活の御業を通して、罪と死に勝利なさった、そのイエスさまのご支配の中に、置いてくださるのです。「天の国はその人たちのものである」。

だから、心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである、と言われていたのです。

…わたしたちが、心の貧しい者であることは、イエスさまが誰よりもご存知です。

迫害に耐える力や覚悟がないこと、わたしたちが弱く、愚かで、情けない者であることなど、百も承知しておられます。

だから、イエスさまが、心の貧しいわたしたちに、御自分の命を与えてくださり、救いの恵みを与えてくださり、天の国を与えてくださるのです。

そして、このようにして、イエスさまによって、天の国がわたしたちに与えられたからこそ。イエスさまが、わたしたちと、御自分を一つに結び合わせてくださり、いつでも、近く、共にいてくださるからこそ。わたしたちは、イエスさまと一緒に、迫害されるようになるのだ、とされているのです。

イエスさまのために迫害されるということは、わたしたちが、イエスさまのものとされていること、イエスさまと一体とされていることの、証拠ともいえるのです。

だから、幸いである、と言われるのです。

<神さま側の人間になる>

そもそも、どうして迫害が起こるのか。迫害は、神さまを受け入れようとせず、背き、反発しようとする、人の罪によって起こります。

今日読まれた旧約聖書の歴代誌下にも、そのことが示されていました。36：15にはこうありました。「先祖の神、主は御自分の民と御住まいを憐れみ、繰り返し御使いを彼らに遣わされたが、彼らは神の御使いを嘲笑い、その言葉を蔑み、預言者を愚弄した」。

旧約聖書の時代、神さまは、御自分の御心を人々に告げ知らせるために、預言者をお立てになりました。

しかし、その神さまの御心に従いたくない人々、背く人々、罪を犯す人々が、神さまの御言葉を告げるために遣わされた者を、嘲笑い、蔑み、愚弄したのです。

神さまの御言葉を告げる預言者への迫害は、神さまへの敵対心から来ているものです。つまり神さまに背く人々からは、神さまから遣わされた預言者は、神さま側の人間だから、神さまと一体だから、迫害を受けなければならなかったのです。

そして、このことを思う時、史上、最も激しい迫害をお受けになったのは、父なる神さまから、この世に遣わされ、神さまの愛と、憐れみと、救いの御心を、人々に、わたしたちに示された、御子イエスさまでした。

イエスさまは、神さまの救いの知らせを告げ知らせ、神さまの愛と命のご支配を実現するために来てくださいました。

それなのに人々は、神さまの愛を受け入れず、救いを受け入れず、神さまのご支配を受け入れず。むしろ、自分たちの思い通りにならないイエスさまを、邪魔者扱いし、ののしり、むち打ち、十字架で殺したのです。

…そうです。まず、神さまに背く罪人であった、わたしたちこそが、神さまに遣わされた御子イエスさまを、迫害したのです。

しかし、イエスさまは、そのわたしたちの敵意を、罪を、背きを、すべてご自分の十字架の上に引き受けてくださいました。

それらをすべて引き取って、御自分の命と引き換えにして、神さまとの和解を、わたしたちに差し出してくださいました。

それが、父なる神さまの、愛と憐れみの御心だったからです。

そして、このイエスさまの御前で、罪を悔い改め、神さまの赦しを感謝して受け入れ、汚れをぬぐわれ、和解させられ、神さまとの平和を与えられた者は、イエスさまと一つに結ばれ、神の子と呼ばれるようになります。

つまり、イエスさまによって、神さまに敵対していたわたしたちが、神さまのものとされる。神さまに属するものとされる。神さま側に立つ者とされるのです。

こうして、わたしたちが、この世で、神の子として生きるようになるとき。イエスさまと一体となって生きるようになるとき。

わたしたちは、未だ、神さまの愛を受け入れず、イエスさまの救いを信じず、背き逆らう人々の神さまに対する攻撃を、一緒に、受けることになるのです。

攻撃し、迫害してくる人々は、かつて、神さまに敵対していたわたしたちでもあります。しかし今や、神さまと和解したわたしたちは、神さまのものとされて、イエスさまがお受けになる、ののしりを、迫害を、身に覚えのないあらゆる悪口を、一緒に受けることになるのです。

…確かに、神の子が、わたしたちの罪のために十字架で死ぬなど、愚かなことに聞こえるかも知れません。死者の復活を信じるなど、バカげていると思われるかも知れません。本当は、すべてを神さまが支配しておられることなど、見えないのだからあり得ないと、取り合ってもくれないかも知れません。

でも、わたしたちは、聖霊によって、イエスさまの十字架と復活こそが、まことの救いであると。そこにしか、まことの救いはないのだと、確信を与えられているのです。

生きておられる神さまが、まことにわたしたちを憐れんでくださり、御子の命も惜しまないほどに、わたしたちを愛してくださっているということ。そのためにイエスさまが、十字架と復活の御業を、確かにこの地上において、実現してくださったということ。

そして、聖霊が注がれて、神の民が集められて、こうして、生かされている群れが、慰められている群れが、喜びに溢れている群れが、教会が、ここに、あるということ。

…今、わたしたちは、疑いようもなく、今ここで、イエスさまと共に生きているのです。

この信仰を与えられている。イエスさまを知っている。神さまの愛を知っている。この恵みは、まことに、はかり知れません。

確かに、天の国は、わたしたちのもので。イエスさまの救いは、わたしたちのもので。そして、わたしたちは、神さまのもので。

だから、イエスさまは、言うてくださるのです。

「あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。」

わたしたちの人生で、これに優る、幸い、喜びは、ありません。

<主と共に生きる喜び>

わたしたちは、ののしられるときも、迫害されるときも、身に覚えのない悪口を浴びせられるときも。この幸いのもとに、この大いなる喜びのもとに、いつもイエスさまと共にあるのです。

ですから、これはわたしが、拷問に耐えられるかどうかとか、逃げないで頑張れるかどうかとか、そういう話では、全然ありません。

イエスさまは、こう言ってくださったのです。「わたしの十字架と復活によって救われ、わたしのものとされたあなたは、わたし側の者として、わたしに敵対する者に迫害されるだろう。でも、それは、あなたがわたしのものである、という証しだ。あなたは永遠にわたしのものだ」と。

わたしたちは、イエスさまに従う者とされて、イエスさまの苦しみもまた、共にする者とされたのです。そしてそれは、罪にも死にも打ち勝たれた、イエスさまの勝利にも、共に与ることが、約束されているということです。

イエスさまは、「天には大きな報いがある」と言われました。

わたしたちは、地上で仮に、争いのない、迫害のない、穏やかな日常を過ごしていたとしても。どんなに、名声や、成功や、豊かさを手に入れたとしても。神さまに愛されていることを知らないならば。イエスさまの罪の赦しを知らないならば。永遠の命と復活に至る希望を知らないならば。何の報いもないのです。

しかし、イエスさまのために、ののしられ、迫害され、悪口を浴びせられるとき。この地上では、何の報いも受けていないように見えたとしても。天の国が、わたしに与えられている、ということを知っているならば。神さまが、わたしの人生を、存在を、愛し、喜び、祝福してくださっていることを知っているならば。それ以上の報いはないのです。

…イエスさまと共に歩む人生です。その中で、わたしたちは、自分で選んで、大きな迫害にあったり、小さな迫害にあったりするわけではありません。

それぞれが、今、おかれたところで、イエスさまと共に歩んでいるからこそ、起こってくる迫害なのです。イエスさまと共に生きていることが、世の他の人に知られているからこそ、起こってしまう迫害なのです。

…今、国家ぐるみの弾圧や、命に関わるような迫害に遭っている方たちのために、わたしたちは、執り成しの祈りを、常に忘れないようにしたいと思います。

でも同時に、迫害は、大変な目に遭っているから立派だとか、小さいから大したことないとか、そんな風に比べたりすることではありません。

わたしたちも、信仰のことを軽んじられる。イエスさまへの疑いを投げかけられる。教会に行くことを反対される。色々な形の迫害が、日々の中にあるのではないのでしょうか。

でも、どのような迫害も、わたしたちは遭いたくて、遭っているわけではありません。

その場、その時、イエスさまと共に生きているから、起こることなのです。

そうだとしたら、迫害の時には、共にいてくださるイエスさまが、心の貧しいわたしたちを、いつも助け、守り、強めてくださるに違いないのです。聖霊で満たし、語るべきことを語れるように。なすべき態度をとることができるように、イエスさまが、新しい力を与えてくださるのです。また必要があれば、逃れの道も、備えてくださることでしょう。

イエスさまは、わたしたちのどのような苦しみも、悲しみも、痛みも。また、弱さも、疑い深さも、罪も、ご存知であります。そのイエスさまが、わたしを担い、いや、もはや一体となって、神の国の完成に向かって、共に歩んでくださるのです。

ですから、わたしたちはただ、わたしの救い主であるイエスさまに、すべてを求め、何でも委ね、心から寄り縋っていく歩みを、ひたすら続けていだけなのです。

そして、「天の国はあなたたちのものである。あなたがたは幸いだ」とのイエスさまの御声を、ずっと聴き続けていくのです。

迫害されるたびに、わたしたちは、イエスさまのものとされている確かさを、ますます深く味わい知ることになります。

迫害されるたびに、わたしたちは、イエスさまが、わたしのために受けてくださった苦しみを追体験し、その愛の大きさを、知らされていきます。

そして、迫害されるたびに、わたしたちは、イエスさまの勝利が現れる日を、ますます待ち望むようになるのです。

…さて、そのような歩みの中で、わたしたちは、迫害する者を決して呪ったりはせず、むしろ、迫害する者のために、祈る者とならなければなりません。

次週の御言葉では、イエスさまが弟子たちに、「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」と語っておられます。

わたしたちがまず、イエスさまを迫害する側のものであったのに。イエスさまが、わたしたちの罪を受け止め、御自分の命を犠牲にし、わたしのために祈ってくださり、愛してくださったゆえに、わたしたちは、イエスさま側の者とされたのです。神さまのものとされたのです。

そして、わたしたちのように、すべての罪人を御自分の許に立ち帰らせることが、神さまの御心なのであります。イエスさまはなお、福音をすべての人に告げ、その救いの御手を差し出し続けておられるのです。

この救いを、幸いを、喜びを、受け取らなくてよい人など、この世には一人もいないのです。イエスさまなしに、本当に人生を喜んで生きることなど、この世の誰も、出来ないのです。

だから、わたしたちもまた、イエスさまと一つにされたものとして、イエスさまの御心を、わたしの心として、一人でも多くの者を、この幸いへと、招いていきたいのです。

「あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい」。このイエスさまの宣言の中、皆で共に、生かされることを、祈り求めていきたいのです。

【お祈り】

天の父なる神さま 御名をほめたたえます。

御子イエスさまをわたしたちに与えてくださり、天の国を、わたしたちのものとしてくださったこと。そして、わたしたちが、イエスさまのものとされ、神の子とされ、イエスさまと共に、この世を生きる者とされたことを、感謝いたします。

わたしたちが、イエスさまのものであることが、最も大きな幸いであり、最も大きな喜びです。そのことだけが、ただ一つの慰めです。

その恵みのゆえに、共にいてくださるイエスさまの御許で、わたしたちがイエスさまのために迫害されるときにも。それは、わたしたちが、確かにイエスさまと一つとされている証しであることを覚え、感謝をもって受け止めていきたいと願います。

そのような苦しみの時には、イエスさまと共にある確信をますます強めさせてください。そして、心の貧しいわたしたちを、聖霊で満たし、忍耐し、祈り、愛することが出来るように。幸いと喜びを証しすることができるように。いよいよ力を与えてください。

そして、世のすべての者が、神さまの愛を知り、イエスさまと一つに結ばれて生きる、まことの幸い、大いなる喜びに、生きることが出来ますように。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 5 2 5 「主なるイエスは」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 2 6 「グロリア、グロリア、グロリア」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン